

## 平成27年度第2回うきは市総合教育会議 議事録

1. 日時 平成27年10月27日(火) 開会15時 閉会16時55分

2. 会場 うきは市役所2階庁議室

3. 出席者 うきは市長 高木 典雄

うきは市教育委員会

委員長 西見 修一

教育長 麻生 秀喜

委員 重岡 喜久子

委員 處 愛美

委員 内山 勝之

事務局関係 企画財政課長 金子好治 教育委員会学校教育課長 内藤一成 企画調整係長 樋口秀吉

4. 協議事項 (1) 教育施策について テーマ「特色ある教育」

(2) その他

5. 議事の概要

### ○国際感覚をいち早く養う

- ・中・高校生による通訳等(外国語で観光案内、外国の方との交流)を通して、国際感覚を養う。たとえば、中・高校生に実践的な英語を教えて、地域おこし協力隊員もサポートしながら、子どもたちに外国人との通訳を通して交流してもらったらどうか。語学の勉強にもなるし、国際感覚も身につけていくとともに、「やりたい、あなりたい」等に気づき、向上心が生まれるのではないのでしょうか。
- ・生きた英語を使うというか、子どもたちに通訳をしてもらう、地域おこし協力隊員ももちろんサポートします。それが、日本の文化を見直しことにもなるし、触発されて、何かをやりたいという気持ちも湧いてくるのではないのでしょうか。
- ・外国人をうきは市にどう呼び込むかも大事。欧米の方は歴史が好きだし、古墳などにも興味があると思う。
- ・うきはブランド推進課では、外国人との交流で、子どもたちの出番をつくろうと取り組んでいます。

### ○寺子屋による地域教育の充実、食育の推進

- ・家庭・学校・地域が絆を結び、子どもたちの生きる力と豊かな心を育てます。子どもたちの学びを支援する寺子屋を充実・強化していったら、地域教育力が上がるのではないのでしょうか。
- ・うきは市の誇る食育も推進していきたいと思います。
- ・食育は、やはり自分で作ってみんなで食べる、そして、親子の対話の中で食べるというのが大事だが、今は対話はなくなっているようだ。自治協議会等で親子の会話づくりの食育もあったらよいと思う。テレビで、食育菜園というアメリカ・カリフォルニア・バークレーの話があり、スローフードを進めたアリスさんが、荒れた学校を変えるため、アスファルトをはいで、菜園にして、自分たちで作って、みんなで食べる食育を進めました。
- ・通学合宿でも、自分で作る、包丁でケガをしたことは想定内で、食事を自分たちでつくる経験が大事。

### ○リトミック教育情操教育・音感教育・生活習慣を三位一体の一貫した指導システムです

リトミック(音楽情操教育)は右脳と左脳を同時に動かす効果があるようですので、小学校に上がった時には、生きる力、生き抜く力につながることを期待しています。

### ○市内出身者による特別授業で学びのきっかけづくり

各界で活躍している市内出身者の特別授業により、学びのきっかけづくりを行う→子どもたちが学ぶ動機付けが大事だと思います。料理の日本チャンピオン、アジアチャンピオンで、世界でも5位になった高山英紀さん（吉井町出身）が子どもたちに食育を教えて、これが「やろう、がんばろう、夢が生まれる」という動機付けになると考えます。また、自転車の今村駿介さんは、カザフスタンでの世界大会で優勝した逸材もうきは市出身で、子どもたちに夢を与えることができるのではないかと考えています。

### ○目標の設定と共有

学校に合った目標に向かってどう実現できるかが大切です。国東市は、地域の子は地域で育てるを実践しています。そのために、組織づくり（教育ネットワーク推進協議会）に取り組みました。目標は、わかりやすく、意味のある、覚えやすく、みんなで向かっていくことが大切です。放課後子ども教室、学びの教室、うきは市はいろいろな計画や目標がありますが、みんなで共有する面が弱いように思います。子どもに学力をつける・地域で教育する・社会を生き抜く力、どれも素晴らしい目標です。それを具現化するために、組織づくり、内容（やり方）を整えることが何より大切です。

### ○地域のことは地域つくる「自治協議会の役割」

- ・自治協議会は、人口減少や縮小社会に対応するため、地域のことは地域でつくる、住民自治意識が大事です。区長との関係でも、委嘱を解いて対等な関係でまちづくりをやっていこうという取り組みです。地域の課題は自ら地域で解決に取り組み、時には儲けを出したりしながら、地域は地域で守る方向へ進んでもらおうとしています。地域で子どもを育てるには、158 行政区で細分化して動くより、11 の自治協議会エリアで動いた方が動きやすいと考えています。
- ・自治協議会の地域教育の取り組みが大事です。

### ○コミュニティスクールの取り組み例

春日市の小学校では、コミュニティスクールが確立されています。学校と地域、子どもが連携し、子どもは地域の行事や祭りに参加するようになっている。これが活性化につながっています。

### ○しっかりした地域コミュニティづくり

家庭教育力・地域教育力の低下と言われるが、地域コミュニティがしっかりすれば学校に頼らなくても、地域づくりはできると思います。学校に頼りすぎではないでしょうか。このままだとたいへんなことになると思っています。

### ○学校教育と社会教育の連携

いろいろな計画がありますが、系統立てて、整理していかなければなりません。地域で子どもを育てる、学校再編の課題、学力向上、生きる力を学校でどう作り出すかということを進めていかないといけません。特色ある教育で話していますが、例示されたのは、社会教育面が多く、学校教育の特色は何になるでしょうか。小中一貫、幼保連携、高大連携等。

### ○継続しながら新たな手法を生かして特色ある教育づくり

特色ある教育は、継続しなければ意味がないと思います。特別なことは長続きしないことが多い。従来やってきた部分で、まだ足りない部分、伸ばせる部分、新たな手法で教育を推進していくことが大事だと思っています。外国人の来客や農業研修生も外国人が多いという現状があります。学校教育だけでなく、市内の至る所でコミュニケーションが必要となっています。英語教育は特に必要ですね。

### ○校区一体となった特色ある教育づくり

特色ある教育をうきは市で共通してやるなら、食育イベントや子育てと教育を進める集いなど、校区一体となって取り組むのがよいと思います。子どもとの関わり、地域の大人の関わりは、具体的には、その地域で自主的に決めた方がよいと思います。そして、数年後に形が見えてくると思います。

### ○大綱は大きな柱

現状と課題・基本目標・重点的施策の例で大綱はよいと思いますが、細かくするととなると、別途、市や学校、協議会等で協議して、その中で、国際感覚を養う（生徒によるボランティアガイド）などやっていくことが大事だと思います。

### ○どんな子どもを育てたいかと聞かれたら

- ・語学力をつけて外へ飛び立つ子どもたち、ICT など新しいものにどんどん打ち込む子どもたちを育てたいと思います。勉強しなくてもそばにいればよいという発想は結局マイナスの結果に終わる、出た子が戻ってくるの方がよいと思う。そのために、教育はどうすべきかが大事だと思う。
- ・私は、子どもたちをネットワークで育てたいと考えています。そこそこでいい話しをしていけれども、線でつながっていない。どこかが中心になって、全体が動いていくのが大切だと思います。

### ○うきはの歴史文化を子どもたちに伝えよう

「うきは検定」をやろうと提案があります。「今の子どもたちは歴史や文化をあまりにも知らないと思う。外からいろいろな人がうきは市にやってくる中、子どもたちに歴史文化を知ってもらいたい。」という気持ちです。

### ○身近な人材を生かさそう

先ほど世界5位の高山英紀さんの話があったが、もっと身近な人材もたくさんいます。実際の話も貴重で、いろいろな方に体験談を話してもらっている。

○早い段階から体験を学び、キャリア教育へつなげるよう取り組んでいます。

### ○ICT 教育を活用しよう

- ・ICT(タブレット端末、電子黒板等)を導入してもらいたい。教師が生徒とのやりとりがしやすい、生徒からも、やりとりが簡単で、相談もできやすい。
- ・ICT という最先端の教育を受けているんだという自信をもって社会へ育ってってもらいたいと思う。アンケートでは6割が外国で働きたくないというが、難民を受け入れて活性化を図ろうとするドイツなど、前に踏み出す教育も大切だと思います。

### ○宿題忘れゼロ、あたりまえの予習環境へ

- ・福島県いわき市の小学校の取り組みがあるが、福島は、家での宿題・予習は当たり前、家庭の学習が大前提で、学校はそこからスタートする習慣になっている。
- ・宿題忘れゼロに取り組んでいる。富山市も三世代同居で、宿題はあたりまえの地域である。うきは市は、家庭学習が少ないのが課題である。

### ○体力に課題があります

中学2年生女子の体力が低くなっています。

○不登校生徒に関して、喜んでくる学校になれたらいいのですが。不登校生徒が減らない、いろいろな事情があります。社協、教育センター、行政もやっているが、なかなか難しい。

### ○平成 30 年から道徳が教科となります

- ・道徳教育の低下にも問題がある。道徳の時間の扱いが教科と同じ扱いになる。うきは市で指導方法を考えていくことは大事。道徳は、徳する道を教えるという基本的な教育の方法を確立していったらいいと思う。
- ・道徳教科は、社会が求める人間をどう作っていくかということ。2つの意見を正解と思われる所に導くのではなく、2つの意見がどう話し合っ、どこに落とし所をもっていくかを議論させなければならない。
- ・郷土の教材を使うことが大事。困難克服体験もいいと思います。鍛錬遠足に代わって、福富小学校の鷹取登山など、子どもの心を鍛えることは大事になっています。
- ・学校で道徳に取り組んでいる。これまでやってきた道徳教育をすればいいという流れで、先生方は道徳の評価をしなければならないので(難しい)、評価への支援が大事だと思います。
- ・アクティブ・ラーニングにより、今までの学習の方法が少し変わってはきます。大筋はかわらない。郷土の副読本も活用できると思う。
- ・コミュニティで道徳をどうとらえるか、子どもたちの伝統行事の参加をどのようにとらえるかが大事になってくると思う。そこで、大人と子どもの共有の時間がとれることになる。

- ・市民大学、自治協議会など、いろんな形で道徳のそじょうに取り組んで、平成 30 年に臨んでいくことが大事です。
- ・うきは市の子どもたちは、規範意識が低い、自尊感情が低いアンケート結果が出ているが、その課題に対して、道徳の時間を多くすることができます。

#### ○家庭がすること、地域がすること、学校がすること

ポートランド研修で、よき市民として、家庭がすること、地域がすること、学校がすることにきちんとわかれていて。中学までは部活動はなく、学校から帰ったら、地域クラブとかに行きます。その中で、道徳というか礼儀正しいとか、どんなレベルまでしなければならないかが明確になっている。それを核に、学校は道徳に取り組んでいます。

#### ○不登校生徒をゼロにしたいと思っています

一人ひとりが強い心をもつとか、希望がもてる、自尊感情が高くなる、思いやりをもって学級集団がよくなるとか、あいまって、いい学校になって、子どもたちがみんな学校にいけるベースづくりに、道徳であってほしいと思う。

#### ○家庭の崩壊

- ・家庭の崩壊が大きな問題ではないでしょうか。どこに光をあてたらよいのか。ソーシャルワーカー等のプロが家庭に入り込まないと、持ちこたえられないのかと感じています。小・中学生の段階から、「親になったら」という教育が必要になるのではないのでしょうか。
- ・ある県では、若年出産が多く、十分な経済的基盤がないので懸念されている。どういう親になる、どんな家庭になる等早く教えないといけないような状況があります。
- ・子どもはさみしいんですよ。家族の崩壊が危惧されているなら、地域の教育がいいと思います。食育のように、みんなで作って食べて、楽しい会話ができれば、子どもたちの気持ちも変わってくるのではないのでしょうか。

#### ○3世代同居は効果的

- ・核家族(2世代)を解消し、大家族(3世代)に戻すことはできますか。富山市のように、3世代奨励金とか出すとか。
- ・子どもが帰っても誰も迎える人がいない。地域で遊ばない、遊ぶ相手がいない等課題も多くあります。そういう中で、コミュニケーションをとれといっても無理な面もあるようです。
- ・3世代同居について、同じ敷地で、2世帯住宅を作れば、同居につながるきっかけになるのか。何かのきっかけで、同居にむけていくことが大事ではないのでしょうか。
- ・老人と子どもがふれあう場所をどう作るか、地域でどう作るかが大事だと思う。地域の方が、昔遊びを教えるとか、子どもが先生で近代的遊びを教えることが相互にできるといいですね。
- ・子どもたちが、あたりまえに地域の行事に参加できる流れになってほしい。
- ・同居世代を増やす方向性も大事。住宅手当とか、きっかけづくりをして、同居世帯を増やすことはできないか。

#### ○わが国の子どもの生育期間の改善に向けて～幼児期の養育がもたらす適切な経済的効果について～

恵まれない家庭に育つ子どもの経済状況や生活の質を高めるにあたり、幼児期の学習環境の整備が重要であり、政策投資は、各ライフサイクルの各時期にもっと平均的に配分されるべきとしている。基礎能力を充実する時期として、幼少期が重要であるとの指摘があり、経済成長と公平性の両立を図る人的資本の投資政策を検討するうえで重要な知見といえる。知識の蓄積だけでなく、学習、健康、生活習慣を含めた子ども期の養育に対する環境整備で、そうでない場合に対して、十分な効果を示すエビデンス(証拠)の一つに考えられる。わが国では、子どもに対する財政投資と老人に対するそれは、1対19と言われている。子どものための総合的な教育・養育・生育環境の整備に対する投資の必要性、必然性に関する研究を推進する必要がある。→もっと予算をもっていくことが大事。3世代同居は、両方をかぶらせることはできないか。